北海道から沖縄まで、意欲ある二八名が受講

本誌編集部

オンラインを活用したハイブリッド型の研修

第三一期となる令和五年度の島づくり人材養成大学は、従来と同様にオンラインと会場研修を組み合わせた「ハイブリッド形式」で開講。プログラム内容は、前回に引き続き、島づくり活動を実践する「プレイヤー」と、周囲の関係者が最大の成果をあげることができるようにコーチング、サポートをする「マネージャー」の両方の資質を備えた「プレイングマネージャー」のスキルを身につけることに主眼を置いた。講師は、平成一九年より本研修に携わる西原 弘さん（有限会社サスティナブル・デザイン代表取締役）が務めた。

今期は、全国一三都道県二二市町村二八名の受講生がエントリー（詳細は「島大使」一覧参照）。令和五年八月一七日（木）に事前オンライン研修として、参加者の顔合わせとグループワーク（Zoomのブレイクアウトルーム機能を活用）を実施。その後の一カ月半は班内の関係づくりのためのミーティングに加え、eラーニング教材を用いた事前オンライン学習に取り組み、九月二六日（火）～二九日（金）の愛媛県上島（かみじま）町での会場研修（弓削島（ゆげしま）「せとうち交流館」）に臨んだ（一名はオンライン参加）。その後、一一月二八日（火）と翌六年二月七日（水）にオンラインによる事後研修を実施。会場研修後の受講生の取り組みをフォローアップした。このうち本稿では、上島町での会場研修の模様を紹介する。

自分の目指す島づくり案を発表

受講生たちは、自分自身の到達点と道標をプログラムの中で考えていく。島を取り巻く環境、立場や年齢など彼らを取り巻く環境はそれぞれ異なっても、島をより良くしたいという想いは

開講式にて受講生へ歓迎の挨拶を述べる上村俊之上島町長。

共通。寝食をともにしながら意見を交わし、支え合うことも本研修のねらいの一つである。四日間の会場研修を通して、受講生は「島づくり」を実現するためのプランニングを「〇〇する大使」「はじめの三歩」として考え、発表する。「〇〇する大使」とは、島づくりでの目標の実現にあたって、自分の役割を表明するフォーマット。「はじめの三歩」はそれに向けてまず取るべき行動を明文化するものだ。

初日は、自己紹介と実現したいこと、「〇〇する大使」をグループ内で発表・共有した。目標設定の必須要件は「達成期日が明確になっていること」「達成の成否を〇×判定できること」である。発表は、島に戻ってから「いちばん協力してほしい人」に向けてプレゼンす

令和5年 8月17日(木)	事前オンライン研修 ・ガイダンス、自己紹介、グループワーク	
8〜9月	・オンライン学習(Learning Management Systemによる自主学習) ・グループ別ミーティング	
会場研修(愛媛県上島町)		
	午前	午後
9月26日(火)	各地から上島町へ	☆開講式、ガイダンス ☆ワークショップ① ・島大使としての目標設定・発表
9月27日(水)	★町内視察(タムラ食品・古川農園・積善山)	☆ワークショップ② ・ダメ出しワーク ・ダメ返しワーク
9月28日(木)	★町内視察(サイクリング・セーリング)	☆ワークショップ③ ・目標見直し ・はじめの3歩ワーク
9月29日(金)	☆島大使発表 ☆総評・修了式	上島町から各地へ
11月28日 (火)	事後オンライン研修① ・実践報告、セルフマネジメントのヒント ・人材育成基金助成事業の案内	
令和6年 2月7日(水)	事後オンライン研修② ・実践報告、セルフマネジメントのヒント ・次年度研修の案内	

第31期島づくり人材養成大学プログラム内容・スケジュール

グループワークの様子。相手の意見やアイデアを否定せず受け入れるコミュニケーションスキルも学ぶ。

るつもりで行なおう、と講師からアドバイスがあった。

初日からのワークショップに苦闘しながらも、「他の方の島づくり案の発表を聞いて、『こんな考え方・着眼点があるんだ』と気づきました（中屋さん）」「班の仲間の意見を聞くことで、曖昧だった自分の目標や活動がブラッシュアップされていくのを感じた（青木さん）」と、他の受講生と交流しながら、自分の目指す島づくりのビジョンを明確にしていった。

最終日には、当初の島づくりの方向性を転換した受講生も少なくなく、より練られた目標の達成に向け、具体的な課題を一歩ずつ解消しようとする姿勢が、どの受講生からも感じられた。

五感を使って上島町を満喫

瀬戸内海のほぼ中央に位置する上島町は全域が離島の自治体であるが、最も近い港では本土と陸続きの広島県因島（尾道市）から船でわずか三分の距離にある。上島町の有人七島のうち弓削島、佐島、生名島、岩城島の四島が島間架橋で結ばれており（最も新しい岩城橋は令和四年三月に開通。本誌二七〇号参照）、「ゆめしま海道」としてサイクリングなどに好適である。そこで会場研修では、受講生が各島の宿舎に分泊し、この四島を自転車で往来するプログラムを取り入れた。

二日目の午前中、岩城島で芋菓子を製造する「タムラ食品」、同島で柑橘栽培やカフェ経営を行なう「古川農園」を訪問。島で特産品を生み出し、全国に流通させる事業の概観を学んだ。

タムラ食品代表の桑原 亮さんは、元々は従業員の一人だったが、島で製造する「芋菓子」を絶やすまいと先代から会社を引き継いだ。朝早くから仕入れた芋を油で揚げ、砂糖をまぶす作業が始まると、工場のある岩城港周辺に甘い香りが漂う。全国から多数の発注が寄せられるほか、島外の方への手土産として購入する町民も多い人気商品である。受講生もできたての芋菓子を試食、全員が町のお土産として島へ持ち帰ったので、さらに芋菓子ファンが増えたことだろう。

古川農園の古川泰弘さんは、島づくり人材養成大学ＯＢ（第一五期）。架橋によって島を周遊する人たちが増えていることから、令和四年にカフェ「nouson808」を開設した。受講生は、自ら収穫したレモンを絞ってスカッシュをつくり、古川農園お手製のレモンケーキとともに、古川さんの経営多角化や全国への販路拡大に関する経験談や、後続移住者のサポート、担い手育成などについての話に耳を傾けた。

昼食は桜の名所として知られ、尾道市から今治市（愛媛県）に至る「しまなみ海道」と上島町全域を一望にできる積善山の山頂にて、「いわぎ物産センター」のレモンポーク丼をいただいた。

第31期島づくり人材養成大学受講者（28人）と「島大使」一覧

自治体名・島名	氏名	島大使
北海道羽幌町・天売島	工藤 翠	子どもを笑顔にする大使
山形県酒田市・飛島	小林 奈生	屋内アクティビティを提供する大使
東京都新島村・新島	関口 まひろ	民宿で島の中と外を繋ぐ大使
東京都新島村・新島	小久保 ののか	コーガ石の家をブランディングする大使
東京都神津島村・神津島	白石 国雄	星空でもっと盛り上げる大使
東京都八丈町・八丈島	鈴木 綾	地産地消のエネルギー活用をPRする大使
新潟県粟島浦村・粟島	宮澤 竜大	島民や観光客が集って話せる場所作りする大使
新潟県佐渡市・佐渡島	菅原 亮	現状を見える化する大使
新潟県佐渡市・佐渡島	佐藤 昌栄	海ゴミや空家などジャマなモノをうまいこと使ってサッパリさせる大使
島根県隠岐の島町・島後	篠原 若菜	英語っておもろ！大使
山口県岩国市・柱島	横山 桂	岩国市全員に柱島を知ってもらう大使
香川県高松市・女木島ほか	檜垣 恵莉	島民の意見を把握・分析する大使
愛媛県上島町・弓削島	古江 七海	留学生をサポートする大使
愛媛県上島町・弓削島	シンクレア 美加	心身ともに元気！にする大使
愛媛県上島町・佐島	青木 俊樹	農業盛り上げる大使
愛媛県上島町・岩城島	宮脇 一平	親の負担を減らし子育てしやすい島にする大使
愛媛県松山市・中島	齋藤 恵子	食で人をHappyにする大使
福岡県福岡市・玄界島	中屋 絵未	島民のアイデアを実現する大使
長崎県対馬市・対馬島	朴 光燮	Uターン＆Iターン移住促進する大使
長崎県新上五島町・中通島	徳丸 啓	巡回企画展をつくる大使
長崎県新上五島町・中通島	豊﨑 洸太	島と島をつなぐ大使
長崎県五島市・福江島	平山 絵美	バラモン凧継承者として全国、世界へ発信する大使
宮崎県延岡市・島野浦島	岩田 大志	観光できる島として再出発させる大使
鹿児島県薩摩川内市・甑島	下竹 英吉	島の独身者に出会いを提供する大使
鹿児島県十島村・トカラ列島	後野 真由美	地域づくりに関心をもってもらう大使
沖縄県伊江村・伊江島	柴田 滋子	伊江島で島人と一緒に島を魅力化する大使
沖縄県座間味村・阿嘉島	垣花 佑	伝統文化を継承する大使
沖縄県久米島町・久米島	江口 翔太	若者が稼げる島にする大使

三日目の午前中、受講生たちは、来島者に人気のアクティビティであるサイクリングとセーリング（ヨット）を体験した。

公私でサイクリングをされている町役場職員の方々の先導のもと、クロスバイクで弓削島を出発。サイクリストが多く訪れる上島町内には、サイクルロードや看板、トイレがしっかり整備されており、道をサイクリストに譲る島人の様子も見られた。体験では、三つのコースを設定し受講生が自分の体力に合わせて選択。各コース折り返し地点にある地域食材を活かしたカフェ（佐島の「book cafe okappa」、岩城島の「たい屋」および「わらしべ」）を休憩ポイントとして、各経営者から島づくりへの思いなどをお話いただいた。一部の受講生は、民間団体の「島旅ヨット」が提供するセーリングを体験。町の周囲の海をヨットで巡った。

「上島町の大きな強みは、魅力的な人

が多数いる事だと感じます（菅原さん）」「町の皆さんが前向きで毎日を楽しんでいる印象を受けて、モチベーションが上がった（小久保さん）」といった感想が寄せられることを鑑みると、多様なプレイヤーが地域資源を活かしてイキイキと活動を繰り広げている上島町は、自分たちの島で今後躍進していく受講生にとって、絶好のフィールドとなったようだ。

次回は徳之島で開催予定

会場研修の開講にあたっては、受講生の受け入れ、移動の支援、視察・体験機会の提供など上島町役場をはじめ、同町観光協会、愛媛県離島振興協議会の皆様などから多大なご協力を賜った。各宿舎や食事処、視察先での手厚い歓迎は受講生ともども印象深いものとなりました。この場を借りて心よりお礼申し上げます。

第三二期の島づくり人材養成大学の会場研修は、鹿児島県徳之島で開催する予定です。

（佐伯）

■島づくり人材養成大学を受講して

愛媛県上島町で開催された「第31期島づくり人材養成大学」に参加したことは、私にとって島の活性化に向けた新たな一歩でした。

まず、目標設定とファシリテーションに関する講義を通じて「地域の子どもたちが喜ぶ巡回企画展を年4回開催する」という具体的な目標を設定できたことは、大きな成果です。地元の新上五島町の仲間たちと協力して取り組んでいきます。

また、全国の離島から集まった参加者との交流は、刺激的かつ心温まるものでした。同じグループには、神津島の星空ガイド、島野浦島の観光に取り組む方、飛島の文化を伝承する博物館を復活させようとする方、瀬戸内の中島でカフェ開業に向けて取り組む方、研修の学びを活かそうとしている市役所の方など、いろいろな立場のさまざまな取り組みを聞き、離島の可能性を改めて感じました。

上島町の特産品の生産現場見学やサイクリング体験も有意義でした。自然の景色を生かしたサイクリングコース、海岸沿いのカフェ、充実した設備など、観光の好循環を象徴しているようで、町の持続可能な発展に寄与していると思いました。

この研修を通じて得た最大の収穫は、何と言ってもやる気あふれる仲間との出会いでしょう。活気あふれる彼らとのつながりは、今後の活動において大きな励みになりそうです。これからも他島の事例を学び、新上五島町の発展に貢献していく所存です。貴重な機会を提供してくださったことに心から感謝し、離島に住む者として地域固有の課題と可能性を深く考え、島の未来のためにチャレンジしていきます。

（徳丸 啓（けい）・長崎県新上五島町）

島間架橋を渡るアップダウンのあるサイクリングコース。

■受講生へのメッセージ

島づくりの「プレイングマネージャー」を目指すというテーマ設定で、オンライン・リアルを併用したハイブリッド型の開催は、今期で3回目となりました。

今回の会場研修は、「ゆめしま海道」のサイクリング（またはヨット体験）というアクティビティも加わり、アタマだけでなく五感の記憶・体感が刻み込まれたのではないかと思います。開催地の上島町役場の皆様をはじめ、今回の研修の企画・実施にご協力・ご尽力いただいた関係各位に、心より感謝申し上げます。

事後オンライン研修（全2回）では新たに、PDCAフレームによるセルフマネジメント力の向上という観点から、行動の結果を4つに分けて検証（Check）し、次の行動につなげていく（Act）ためのワークを取り入れました。

①意図した行動で、うまくいったこと
②意図した行動ではないけれど、うまくいったこと
③意図した行動で、うまくいかなかったこと
④意図した行動ではないけれど、うまくいかなかったこと

「意図した行動」（①③）が、PD（Plan：計画・Do：実行）に該当します。行動すれば、良くも悪くも結果が出ます。その結果が、次のPを考える材料になります。加えて、「意図した行動ではないけれど」（②④）の部分も、「予期せぬ機会」「想定外のリスク」が顕在化したわけで、次のPを考えるときには「織り込み済み」にしていくことが重要です。

このようにしてCA（Check：検証・Act：見直し）を習慣化し、PDCAのサイクルを早く回してセルフマネジメントすることで、自身の成長が加速し、所期の成果に近づきやすくなります（プレイヤーとしての成長）。

一方、このやり方を島づくりに取り組む仲間やプロジェクトそのものに適用することで、マネージャーとしての役割をよりよく果たせるようになります（マネージャーとしての成長）。

受講者の皆さんには、ぜひそれぞれの活動の場で、「良い影響力」を周囲の人々におよぼしていってほしいと思います。

（西原 弘・第31期島づくり人材養成大学講師）

第31期島づくり人材養成大学受講生の集合写真。